取扱説明書/組立説明書

スピーカーキット

型名 SX-WD1KT

本機は、キャビネットと振動板に天然木を使用しています。そのため、外観が一台ごとに異なります。

LVT1760-001A

お買いあげいただき、ありがとうございます。

⚠ご使用の前に

この「**取扱説明書**」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
特に「安全上のご注意」「ご使用の前に」「組み立てを始める前に」は必ずお読みいただき、安全にお使いください。
お読みになったあとは、大切に保管し、必要なときにお読みください。

製品のサポート情報、イベント情報等の提供サービスなどをご利用いただけます。

http://www.victor.co.jp/reg/

ご相談や修理は

ビクター製品についてのご相談や修理のご依頼は、お買い上げの販売店にご相談ください。

転居されたり、贈答品などでお困りの場合は、下記の相談窓口にご相談ください。

お買い物相談や製品についての全般的なご相談
お客様ご相談センター

フリーダイヤル **0120−2828−17**

携帯電話・PHS・FAXなどからのご利用は
電 話 (045)450−8950
FAX (045)450−2275
〒221-8528　横浜市神奈川区守屋町3-12

・ご相談窓口におけるお客様の個人情報は、お問い合わせへの対応、修理およびその確認に使用し、適切に管理を行い、お客様の同意なく個人情報を第三者に提供または開示することはありません。

ビクターホームページ　http://www.victor.co.jp/

日本ビクター株式会社

〒221-8528　横浜市神奈川区守屋町3-12

0807NYMMODHCE

安全上のご注意 ーはじめにお読みくださいー

絵表示について

この取扱説明書と製品には、いろいろな絵表示が記載されています。これらは、製品を安全に正しくお使いいただき、人への危害や財産への損害を未然に防止するための表示です。絵表示の意味をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告

●この表示の注意文を無視して、誤った取扱いをすると、「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容を示しています。

⚠注意

●この表示の注意文を無視して、誤った取扱いをすると、「傷害を負ったり物的損害が想定される」内容を示しています。

●絵表示の説明

注意をうながす記号

行為を禁止する記号

行為を指示する記号

⚠警告

■本機の包装に使用しているポリ袋は、小さなお子様の手の届くところに置かない
・頭からかぶると窒息の原因となります。

■スピーカーは定格入力を超えるアンプに接続しない
・スピーカーの定格入力や定格インピーダンスに不適合のアンプで使用すると、火災、感電の原因となります。ご使用の際は取扱説明書をよくお読みください。不明な点がありましたら、販売店やサービス窓口にご相談ください。

⚠注意

■工具の使用には充分注意する
・はさみなど刃物およびハンマーによるケガ・事故に注意してください。
・接着剤および塗料はそれぞれの取扱説明書にしたがって使用してください。

■小さなお子様のいる場所では組み立てない
・工具にさわったり、部品やビニール袋を口に入れるとケガや窒息の原因となります。
・万一、お子様が飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

■不安定な場所に置かない
・ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。

■スピーカーに乗ったり、ぶら下がったりしない
・特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。

■接続するときはアンプの電源を切る
・スピーカーをアンプに接続する際はアンプの電源を必ず切ってください。電源が入った状態でコードをショートさせると、アンプが故障したり、火災、感電の原因となることがあります。

■はじめから音量を上げすぎない
・アンプの電源を入れる前に、音量（ボリューム）を最小にしてください。突然大きな音が出て、スピーカーを破損したり聴力障害などの原因となることがあります。

■長時間、音が歪んだ状態で使用しない
・スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

ご使用の前に

■設置上の注意

・キャビネットの変形・変色を防止するため、直射日光や湿気の多い所、冷暖房器の近くなどを避けて設置してください。
・スピーカーの振動でハウリングを起こすことがあります。できるだけレコードプレーヤーから離してください。
・本機はカラーテレビに対して色むらを起こさないように防磁処理をしたスピーカーですが、設置方法によっては色むらが生じる場合もありますので、設置の際は次の点に注意してください。
1. 本機と一緒にテレビを使用する場合は、必ずテレビの主電源スイッチを切った状態で設置してください。
なお、テレビの主電源スイッチは、切ってから少なくとも 30 分後に入れるようにしてください。
2. テレビの種類によっては、色むらを生じることがあります。色むらを生じるときは、十分離して設置してください。

■お手入れについて

スピーカーシステムの手入れをするときには

・スピーカーシステムの汚れは柔らかい布（ネルなど）で軽く拭き取ってください。
汚れがひどいときは、中性洗剤で拭き取り、乾いた布で仕上げてください。（ご使用の中性洗剤については、その注意書きにしたがってください）
・スピーカーの表面をベンジン、シンナーなどで拭いたりしないでください。変質したり、塗料がはがれることがあります。

よい音で聞くためには

■スピーカーシステム設置の配慮

・スピーカーシステムの再生音はリスニングルームの条件によって微妙に影響を受けやすいものです。
設置時には、側面の壁から 50cm 程度離すことを、おすすめします。
これは本機をご使用になるリスニングルームの諸条件により変化しますので、上記を目安とし、音場が拡がり、音像がはっきりと定位する位置に設置することをおすすめします。

■音場の改善

・反射または共振を起こしやすい洋間では、厚手のカーテンやジュータンなどをお使いください。
また、スピーカーの正面（向かい側）が固い壁やガラス戸などの場合には、反射や定在波の発生を防ぐ目的で厚手のカーテンなどで吸音処理することをおすすめします。

■ステレオを聞くときのエチケット

・ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さな音でも周囲によく通るものです。窓をしめたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。
このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

音のエチケット

接　続

■接続のまえに（次のことに注意して接続してください）

・本機の最大入力（JIS）は 30W です。
・本機の定格インピーダンスは 4 Ωです。負荷インピーダンス 4 Ωが接続できるアンプをご使用ください。
・アンプ側の電源を必ず切ってください。電源が入った状態でスピーカーコードをショートさせますと、アンプを故障させる恐れがあります。
・本機にはアンプと接続するスピーカーコードを添付しておりません。ご購入の際は、次の点に注意してお選びください。
 ースピーカーコードはできるだけ短く、芯線の太いもの（最大 φ 4mm）をご使用ください。
 ーアンプとの距離の関係でスピーカーコードの左右の長さが異なる場合には、スピーカーコードの長さをアンプとの距離が遠い方に合わせて揃えてください。
 ー特殊なスピーカーコード（リッツ線、同軸線）や、方向指定のあるコードは固有のキャラクターが微妙に音質に影響する場合があります。十分ご検討の上お選びください。

■アンプのボリューム

・スピーカーの音が割れないボリュームでご使用ください。ボリュームを上げすぎると、スピーカーが破損する恐れがあります。

■接続のしかた

下図をご参照の上、本機の入力端子とアンプのスピーカー端子をスピーカーコードで接続してください。

入力ソースについて

■ CD ／ DVD などのデジタル系ソースを再生する場合

レコードにはスクラッチノイズが、カセットテープにはテープヒスノイズがありますが、デジタル系ソースではノイズがほとんどなく無音から急に音楽信号が入ってきます。また、ダイナミックレンジが広く急激に音が立ち上がりますので、スピーカーに過大入力が加わらないようアンプのボリュームに注意してご使用ください。

■特殊な入力信号の場合

本機に次のような特殊信号が加えられると、過大電流による焼損断線事故の原因となることがありますので、十分注意してご使用ください。

① FM チューナー選局時の大きな局間ノイズ
② アンプやチューナーなどの "オン"、"オフ" 時のショック音
③ 接続端子の抜き差し時のショック音
④ カートリッジ交換時のショック音
⑤ 発振器や電子楽器などによる連続的な高い周波数成分の音
⑥ マイク使用時に起こりやすいハウリングの音または発振音
⑦ 引き回したスピーカーコードによるアンプの高域発振出力

仕　様

種類	1 ウェイ バスレフ型 防磁形（JEITA）
使用スピーカー	8.5 cm コーンスピーカー
定格入力（JIS）	7.5 W
最大入力（JIS）	30 W
定格インピーダンス	4 Ω
再生周波数帯域	55 Hz ～ 20 kHz
出力音圧レベル	81 dB/W・m
最大外形寸法	横幅 120 mm × 高さ 160 mm × 奥行 233 mm（ユニットおよび端子を含む）
質量	1.6 kg（1 本）

JEITA は、電子情報技術産業協会の規格による数値です。

（注）　本機の仕様および外観は、改善のために予告なく変更することがあります。

「ウッドコーン」について

木製振動板「ウッドコーン」

ヴァイオリンやギター、ピアノ等、美しい音色を奏でる楽器の多くは木を使用しています。中でも無垢の木材は音の自然な減衰特性が特長で心地よい響きを生みます。
振動板の特性を評価する指標には「伝搬速度 (音を伝える速さ)」と「内部損失 (音を吸収する度合い)」があり、音の解像度やメリハリを高めるには、この相反する特性の値がともに大きく、バランスのとれた素材が理想とされています。この理想に近い素材が楽器にも使われている木材なのです。
今から 20 年前、一人の技術者が木の振動板を試作しました。扇形状の薄い木製シートを数枚張り合わせてコーン（円錐）形状に造り上げた振動板は、オーディオ開発に携わる技術者の魂を揺り動かすほどの魅力的な音色でした。残念な事に、天然素材ゆえの品質、生産上の課題が大きく、量産化は実現できませんでした。
しかし、音楽への深い愛情とともに満足ということを知らない技術者の執念が、奇跡にも近い発想の転換を経て 20 年後、ついに量産化を実現させたのです。
このウッドコーンの能力を十二分に発揮させる為、チェリーの無垢板をスピーカーキャビネットに採用したほか、マグネットやボイスコイル、フレームはもちろん、ネットワーク部の音響パーツ一つ一つを厳選し、高品位な音質再生を目指しました。
かつて技術者の夢であったテクノロジーと長年にわたり培ってきたクラフトマンシップ。
音楽を愛する全ての方に感動が魂を揺さぶるエモーショナルなサウンドをお届けします。

組み立てについては、裏面をご覧ください。

組み立てを始める前に

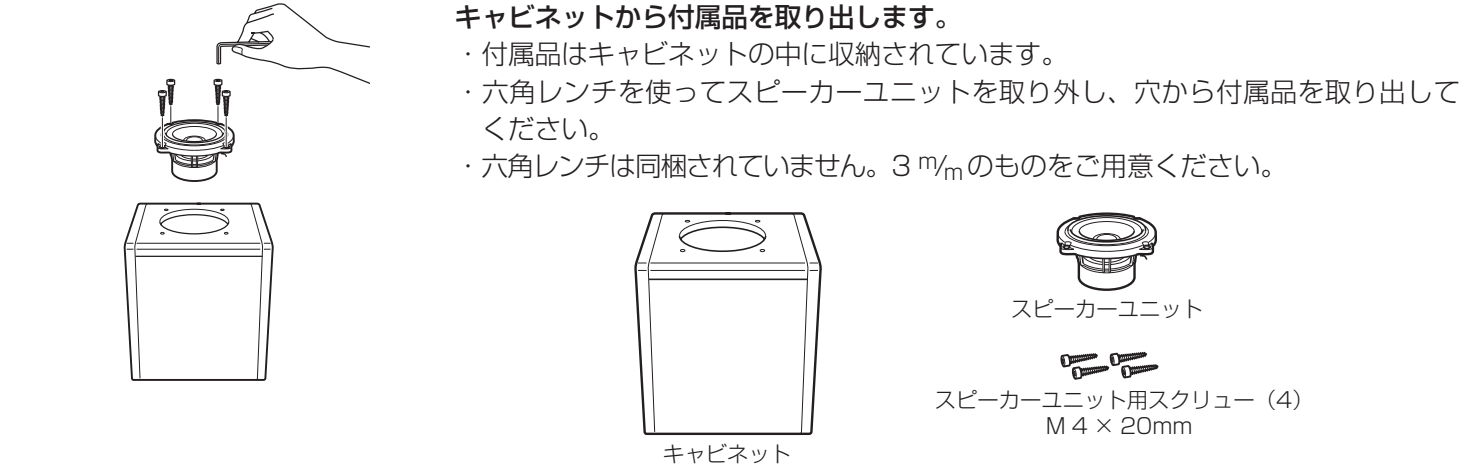
キャビネットを塗装する場合は、必ずスピーカーを組み立てる前に行ってください。組み立てた後で塗装すると、スピーカーを正常にご使用できなくなる可能性があります。あらかじめ、右下の「キャビネットを塗装する」をご覧ください。

ご注意

・キャッシュカード、フロッピーディスクなどの磁気を利用した製品や時計をスピーカーユニットの近くに置かないでください。スピーカーユニットの磁気の影響で使えなくなったり、データが消失することがあります。

・本機は木材を安定させるための処理（目止め）を部分的に行っています。このためキャビネットにツヤがある箇所がありますが、品質上は問題ありません。
・この組立説明書では、スピーカー１本についての組み立てかたを説明しています。同様にもう１本も組み立てて、２本同時にご使用ください。

■付属品をキャビネットから取り出す

キャビネットから付属品を取り出します。
・付属品はキャビネットの中に収納されています。
・六角レンチを使ってスピーカーユニットを取り外し、穴から付属品を取り出してください。
・六角レンチは同梱されていません。３ m/m のものをご用意ください。

・取り外したスピーカーユニットおよびスクリューは、なくさないように保管してください。

■付属品を確認する

キャビネットには、スピーカー１本の組み立てに必要な個数の付属品が収納されています。すべて揃っていることをお確かめください。
不足しているものがありましたら、お買い上げの販売店にご連絡ください。

■組み立てに必要な工具

次の工具は同梱されていません。組み立ての前にご用意ください。

工　具	備　考
六角レンチ	３ m/m のものをご用意ください。
プラスドライバー	No. ２をご用意ください。
木工用接着剤	
はさみ	
定規	
ハンマー	ダクトを取り付けるときに使います。

キャビネットを塗装する場合は、次の工具もご用意ください。

工　具	備　考
サンドペーパー	荒削りは木工用 #300 〜 500、仕上げは木工用 #600 〜 1000 を目安にしてください。
布（綿布）	サンド粉を拭き取ります。
筆	溝に入ったサンド粉の清掃に使います。
木工用パテ	キャビネットにキズを付けてしまったときに使用します。種類によっては色むらの原因となりますので、キャビネットの色に合ったものをご用意ください。
木工用塗料	色付きの木工用ニスをご使用になると、木目を活かして仕上げることができます。

組み立て

■ダクトを取り付ける

1　**エアー漏れ防止のため、ダクトのリブのある側の周囲に木工用接着剤を付けます。**

2　**ダクトをキャビネットのダクト穴に入れます。**
・向きを間違えないように注意してください。
・キャビネットや作業場所などにキズをつけないように吸音材（白）を下にしいてください。

3　**ダクトのリブに引っかかるところまで、手で押し込みます。**
・前面の穴から見て、ダクトの向きが正しいか確認してください。

4　**ハンマーでたたいて、ダクトをキャビネットに打ち込みます。**
・ダクトとキャビネットにキズをつけないように吸音材（黒）をあてて打ち込んでください。
・１度に打ち込もうとしないで、弱い力で数回に分けて徐々に打ち込んでください。
・１箇所だけを集中してたたかないでください。ダクトが斜めに入る恐れがあります。
・吸音材（黒）やキャビネットを手で押さえているときなど、ハンマーで手をたたかないよう充分ご注意ください。

5　**ダクトとキャビネットとの間に隙間がなくなれば、打ち込みは完了です。**

お知らせ
・木工用接着剤がはみ出したときは、水でぬらして固く絞った布で拭き取ってください。

→ 次は「■吸音材を張る」にすすみます。

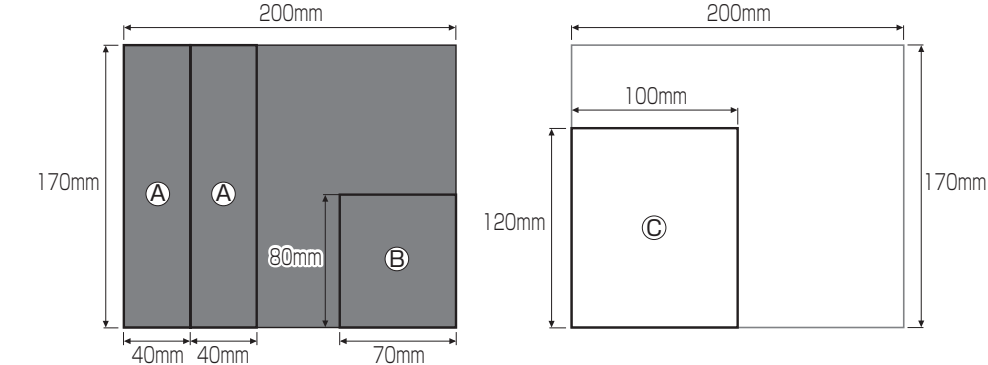
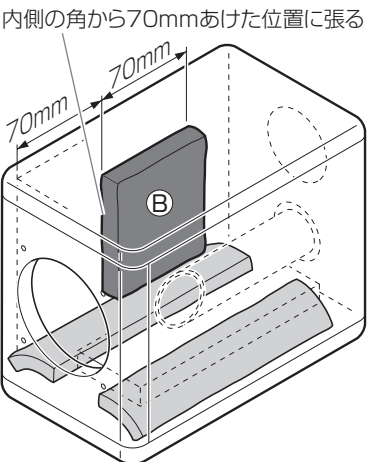
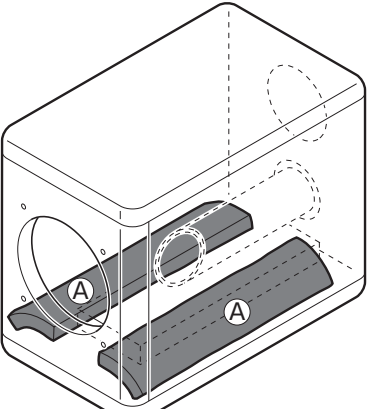
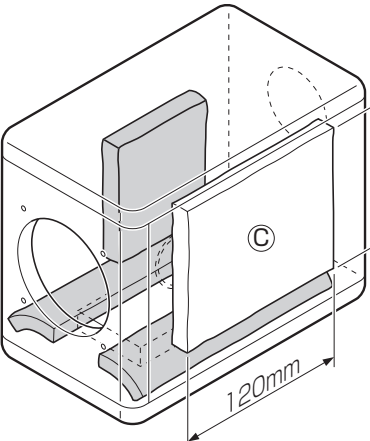
■吸音材を張る

お知らせ
・吸音材の量と張る位置によって音質が変化します。

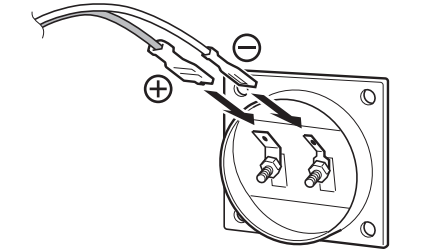
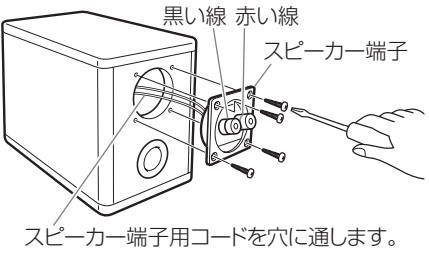
吸音材は黒（粗毛フェルト）と白（ウール）の２種類があります。

1　**定規で寸法をはかり、はさみで吸音材をカットします。**

黒（粗毛フェルト）
Ⓐ 170mm × 40mm …２枚
Ⓑ 80mm × 70mm ……１枚

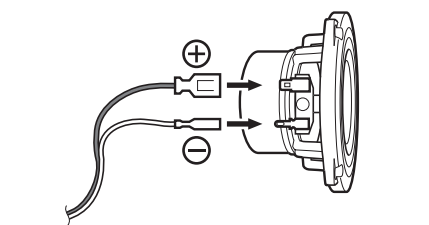
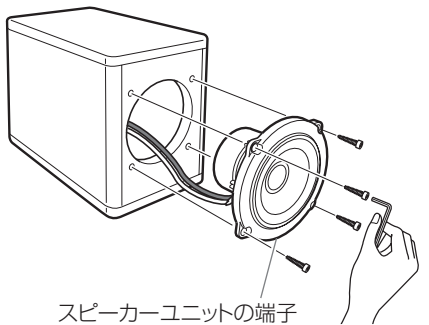
白（ウール）
Ⓒ 120mm × 100mm …１枚

2　**カットした吸音材Ⓐをキャビネットの内部の底面に張り付けます。**
・木工用接着剤をご使用ください。

3　**吸音材Ⓑをキャビネット内部の左側面に張り付けます。**
・木工用接着剤をご使用ください。

4　**吸音材Ⓒをキャビネット内部の右側面の中央に張り付けます。**
・木工用接着剤をご使用ください。

→ 次は「■スピーカー端子を取り付ける」にすすみます。

■スピーカー端子を取り付ける

1　**スピーカー端子とスピーカー端子用コードを接続します。**
・「カチッ」と音がするまで差し込んでください。
・スピーカー端子用コードに方向性はありません。

2　**スピーカー端子をスピーカー端子用スクリューでキャビネットに取り付けます。**
・スピーカー端子がななめ上を向くようにして取り付けてください。
・プラスドライバーをご使用ください。

■スピーカーユニットを取り付ける

ご注意

・キャッシュカード、フロッピーディスクなどの磁気を利用した製品や時計をスピーカーユニットの近くに置かないでください。スピーカーユニットの磁気の影響で使えなくなったり、データが消失することがあります。

1　**スピーカーユニットとスピーカー端子用コードを接続します。**
・キャビネットの穴からスピーカー端子用コードを引き出し、スピーカーユニットに接続します。
・「カチッ」と音がするまで差し込んでください。

2　**スピーカーユニットをスピーカーユニット用スクリューでキャビネットに取り付けます。**
・スピーカーユニットの端子（スピーカー端子用コード）が下側にくるように入れてください。
・六角レンチをご使用ください。

ご注意

・スクリューが磁気によりユニットに引き寄せられる場合があります。スクリューがユニットに当たるとユニットが破損する可能性がありますので、ご注意ください。
・ユニットの裏側（磁気回路）にスクリューなどの金属が付く場合があります。取り付ける前に確認してください。

これで組み立ては終わりです。
製品の取り扱いについては表面の「よい音で聞くためには」「接続」「入力ソースについて」をご覧ください。

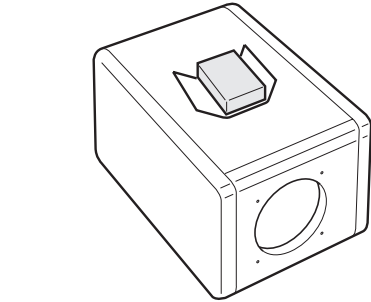
キャビネットを塗装する

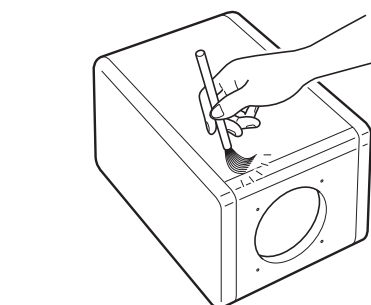
キャビネットを塗装する場合は、必ずスピーカーを組み立てる前に行ってください。組み立てた後で塗装すると、スピーカーを正常にご使用できなくなる可能性があります。

ご注意

・換気を充分に行ってください。
・汚れても構わない場所、服装で作業してください。
・キャビネットが乾燥するまでは、ほこりが付きやすいので、ほこりが立たない場所で塗装してください。

パテ埋めについて

キャビネットの凹凸が気になったときは、パテ埋めで補正してください。パテ埋めは、必ずサンドペーパーでキャビネットを磨く前に行ってください。市販の木工用パテを使うと、より滑らかに仕上げることができます。
木工用パテの種類によっては色むらの原因となりますので、キャビネットの色に合ったものをご用意ください。

1　**キャビネットの表面をサンドペーパーで磨きます。**
・キャビネットの表面を触ったときに、デコボコがなく滑らかになるまで磨いてください。
・荒削り用のサンドペーパーで磨いた後に仕上げ用のサンドペーパーで磨くと、きれいに仕上げることができます。

お知らせ
・木工用サンドペーパーをご使用ください。
・木目の方向に沿ってサンドペーパーで磨いてください。キャビネットの面によって木目の方向が異なります。作業する前に確認してください。
・平面部はあて木を使うと平滑になります。

2　**乾いた布でサンド粉をきれいに拭き取ります。**
・溝に入ったサンド粉は筆を使うと、きれいに取ることができます。

3　**キャビネットを塗装します。**
・お使いになる塗料の注意書きにしたがって、塗装してください。
・色付きの木工用ニスをご使用になると、木目を活かして仕上げることができます。